さらなるブランド化へ

第3回神戸マラソンまであと50日

関係者座談会

2万人のランナーが晩秋の神戸のまちを駆け抜ける「第3回神戸マラソン」が11月17日に開かれる。「感謝と友情」をテーマに、走る人、応援する人、ボランティアで支える人が一体となって関わる大会の雰囲気は、神戸の魅力の一つとして育ちつつある。開催まであと50日。都市型マラソンが増える中で、神戸マラソンをさらにブランド化していくためには何が必要なのか。それぞれの立場から、神戸マラソンへの提言を語ってもらった。

入江　西影さんは1回目から事務局に関わっている。過去2回を振り返って神戸マラソンの特長を。

西影　「感謝と友情」というテーマそのものが他にはない特長だ。神戸は阪神・淡路大震災の時に国内外から多くの支援を受けた。スポーツイベントを通じて全世界にありがとうの気持ちを発信したいとの思いを込めて開催している。

過去2回の開催で特にランナーから高い評価をいただいている点が三つある。一つ目は途切れない沿道の応援。昨年は神戸市民の3人に1人に当たる約55万人が応援した。二つ目がボランティアのサポート。受け付け、給水、救護など、笑顔で温かくランナーを迎えている。今回も7千五百人のボランティアが参加する。三つ目はコースの魅力。スタートの神戸市役所から旧居留地を抜ける「市街地エリア」、震災の被害から立ち直った長田周辺の「復興エリア」、明石海峡大橋を望む折り返し地点周辺の「海岸エリア」、須磨から高松線にかけての「下町エリア」、そして最後の浜手バイパスからポートアイランドにつながる神戸大橋を渡る「眺望エリア」。実業団ランナーからも刻々と変わる風景は他のマラソンにないすばらしさだ、と評価をいただいている。

入江　こしきさんは今年の神戸マラソンに初出走される。また、ラジオ関西で10月7日から始まる神戸マラソン関連番組のパーソナリティーも務める。これまでの神戸マラソンに対する印象は。

こしき　昨年の神戸マラソンに事務所の先輩の森脇健児さんが参加したので沿道で応援したが、海沿いの道にもたくさんの応援の方がいた。今年はその応援を自分が受けられるのかと思うと楽しみ。おしゃれな女性のランナーが多いことも印象的。マラソン当日に着用するウエアとシューズで審査する「おしゃれランナー賞」も神戸ならでは。今回は受賞を目指しておしゃれを楽しみたいし、観ている女性から「ああいう女性ランナーになりたい」と思ってもらえるようになりたい。

特長

西影さん　強いメッセージ性ある
こしきさん　おしゃれランナー多い

魅力

西影さん　市民一体で大会づくり

入江　永末さんと打間さんは「神戸マラソン魅力・発信アドバイザリースタッフ」を務めている。ホテルの支配人を務め、おもてなしを体現されてきた永末さんから見た神戸マラソンの魅力は。

永末　おもてなしの話をするとき、私はマズローの「欲求段階説」に例えてよく話をする。人間はまず「生理的欲求」や「安全欲求」を求める。お手洗いや給水所がどれだけ整備されているか、警備は万全か。これらをふまえた上で、最後に「承認の欲求」が満たされることで自己実現欲求が頂点に至る。沿道の皆さんの応援こそが「承認」になる。人に支えられながら目標や夢の実現を果たすという意味では、マラソンは人生そのもの。おもてなしは思いやりそのもの。皆さんの温かな心で神戸のおもてなしを表すことができればすばらしい。

西影　神戸マラソンは沿道の各ポイントで多くのイベントが行われている。それ以外にも関連して、ファッションやグルメ、スイーツ、ジャズなど神戸らしいイベントもある。県民、市民が一体となったマラソンづくりができている点も大きな魅力だ。

入江　海外在住経験もあり、インターナショナルな視点をお持ちの打間さんは、神戸マラソンをどう位置づけているのか。

打間　海外の人には「日本イコール東京」で、神戸のことはあまり知られていない。私はスイスや米国で9年間暮らしていたが、神戸に戻るたび、とてもほっとした記憶がある。神戸には山、海があり、絵でも見ているようなすばらしい景色を持っている。治安はとてもよく、世界各国の料理を食べることもできる。この神戸のすばらしさをアピールして、マラソンをきっかけに神戸をぜひ訪ねてほしいと考えている。

入江　2回の大会をふまえ、改善するところ、新たな取り組みなどがあれば。

西影　手探り状態だった1回目から、給水、給食、トイレの配置を見直した。ただ、トイレについては2回目に仮設トイレの回転をよくするために男女共用にしたところ、並びにくいという意見もあった。沿道の学校などにある既存のトイレを開放してもらえないか、お願いもしている。

クォーターのスタートブロックを昨年は、フラワーロードと直角に東に向かって設定されていたが、今回はフラワーロードに全て並ぶようにする。この結果、スタートまでの待ち時間も短くなる。フィニッシュはポートライナーの市民広場駅に近く、混乱しないように駅までの動線を長くしているのだが、これも短くするようレイアウトを考え直している。

今年4月には米ボストンマラソンで爆破テロがあり、8月には京都・福知山の花火大会で事故があった。テロや危険物取り扱いに対する危機管理も万全で臨みたい。

打間さん　景色や料理すばらしい

課題

入江　走る人のレベルによって求めるものも違う。

西影　フルマラソンで4時間を切る（サブフォー）高速ランナーと、5～6時間台のランナーとでは確かに要求内容が違う。サブフォーランナーは走ることに対する要求レベルが厳しい一方で、5～6時間のランナーは神戸の街を楽しむ、景色を味わうという付随的な要素にも満足度の重きを置いている。両方の角度から考えないといけない。

問い合わせで多いのは出走の抽選。毎回コンピューターを使って抽選をしているが、3回連続で通った人もいれば3回続けて落ちた人もいる。連続で落ちている人を救えるような工夫は来年以降の課題としたい。競技志向のランナーにリピーターになってもらえるような仕掛け、練習した人が報われるような仕組みも考えたい。

入江　おもてなしの観点から改善すべき点があるとすれば。

永末　他府県、外国からの参加も増えていると聞いている。神戸のホテルは土曜の稼働率は高いが日曜は下がる。大会は日曜日なので、付加価値を提供すればよい。例えばチェックアウトの時間を遅めにして、レース後にホテルに帰ってシャワー浴びて、夜食事をしてから帰るとか、昼間の利用でレース後にシャワーを浴びてエステやマッサージをしてから帰る、といったサービスを用意してもいい。民間がさまざまな提案をすれば経済効果にもつながる。

こしき　ランナーは走った後ゆっくりしたい。中でも何をしたいかというと、お風呂に入りたい。お風呂に入っておいしいご飯を食べてぐっすり寝て、翌日おいしい朝食があれば喜ばれるのでは。トイレに関しては、これまでの経験でいいなと思ったのは「うちのトイレを使ってください」という案内があったこと。自宅のトイレを開放するくらい、地域の方々が大会を愛しているのだなと思えるし、そういう雰囲気がある大会は「走れてよかった」と感じる。

西影　大会を終えて、単によかったな、で終わらず、必ず検証し次に生かす仕組みを作っている。そのための四つの指標を設けている。ランナー、ボランティア、観戦者それぞれの満足度等を大学の研究室などに依頼して調査している。また、民間シンクタンクで経済波及効果についても調べている。それらの結果を受け、ランナー、ボランティア、県民市民、スポンサーの視点で満足度、効果をさらに上げるための準備に取り組んでいるところだ。

入江　外国人ランナーを増やすには。

打間　現在、神戸マラソンのフェイスブックの英語版開設準備に取り組んでいる。外国人ランナーの興味を引くような話題を載せていかないといけない。これまで参加した外国人ランナーが、神戸に来て驚いたことをまとめてみた。例えば、女性専用車両もその一つ。イスラム系の方は男女一緒の行動を嫌がるのでアピールできる。コンビニエンスストアのパンがおいしい、ケーキがきれいでおいしい、という声もあった。そういう情報を流していくと安心につながる。家族連れで来た場合、お父さんが走っている間、残りの家族がどこに行けば楽しめるかという情報も重要だ。

永末さん　宿泊施設に付加価値を
打間さん　外国人向けに情報発信